

知名町担い手育成総合支援協議会	10	東津東部地区	ばれいしょ	①緑肥を中心とした有機物の投入、深耕による根域の拡大、心土破砕による排水性の向上 ②畑かん水の積極的な活用 ③生育ステージに応じた予防的薬剤散布の実施 A品種特性や生育に応じた適切な収穫・出荷体制の整備 B重要である担い手への農地集積と機械化一貫体系の確立による管理作業等の実効性向上の整備 CJA、園芸資材、町、作業委託者協会、その他出荷団体の協賛などによる研修会の開催や巡回管理	販売額の10%以上の増加(単位面積当たり)の増加	183,274 円/10a	7.90	ha	97,520	kg	148	円/kg	4	211,072 円/10a	11.7	ha	164,636	kg	150	円/kg	4	312,404 円/10a	4.8	ha	70,537	kg	214	円/kg	-	182	円/kg	244	円/kg	0.746	233,143 円/10a	令和元年産出荷実績と令和4年度産出荷実績を評価して検証する。 現状：14,478千円/7.90a 実績：15,095千円/4.80a	179.4%	シーズンを通して高単産で推移し、巡回収穫・助産により収量が増えた結果、目標を達成した。	兼用型防除機をリース導入し、耕起等による作業対量が確保でき収量が上がったことから、目標を達成することができた。
知名町担い手育成総合支援協議会	9	壺子母地区	パレインシ	①緑肥を中心とした有機物の投入、深耕による根域の拡大、心土破砕による排水性の向上 ②畑かん水の積極的な活用 ③生育ステージに応じた予防的薬剤散布の実施 A品種特性や生育に応じた適切な収穫・出荷体制の整備 B重要である担い手への農地集積と機械化一貫体系の確立による管理作業等の実効性向上の整備 CJA、園芸資材、町、作業委託者協会、その他出荷団体の協賛などによる研修会の開催や巡回管理	販売額の10%以上の増加(単位面積当たり)の増加	210,175 円/10a	9.8	ha	143,246	kg	144	円/kg	4	248,803 円/10a	12.7	ha	211,500	kg	150	円/kg	4	199,859 円/10a	11.5	ha	92,395	kg	250	円/kg	-	182	円/kg	244	円/kg	0.746	149,451 円/10a	平成30年度産出荷実績と令和4年度産出荷実績を評価して検証する。 現状：20,597千円/9.80a 実績：23,055千円/11.50a	-153.2	12月、1月の寒波、強風の影響により単収が下がった。引き続き、巡回収穫の徹底及び巡回等、巡回管理を推進する。	兼用型防除機をリース導入し、令和3年度に目標達成したが、令和4年度は気象条件により単収が下り、目標を達成することができなかった。 県では、目標達成に向け、引き続き、関係機関・団体と連携して、安定した量を出荷できるように、巡回栽培管理を指導する。

(3) 契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること

地域協議会名	整備番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												事後評価の検証方法 (※定量的な検証ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考												
					現状				目標				実績																				
					年度	面積	生産量又は出荷量	契約取引量	年度	面積	生産量又は出荷量	契約取引量	年度	面積	生産量又は出荷量	契約取引量																	
金峰町農業再生協議会	1	金峰町地区	水稻	・慣行家からGAP認定米への転換 ・1等米比率の向上 ・出荷規模の拡大、新規取組の増加 ・出荷時期の前倒化・労働時間、運営コストの削減	30	71.45%	330.8	ha	1301.43	t	929.88	t	4	77.50%	330.8	ha	1571.3	t	1217.80	t	4	90.79%	320.9	ha	1062.54	t	964.70	t	取組主体の販売実績により検証	319.7	取組の進捗状況の報告を受け、栽培技術指導や助産を行った。目標が達成された。引き続き、この取組が継続されることに期待したい。	生産量の向上とされる契約取組の増加に向けた取組により目標を達成された。引き続き、この取組が継続されることに期待したい。	事業実施期間1年限り
豊野市農業再生協議会	3	財部町	茶	荒茶加工施設の建設(「TPO」電料用ラインの導入) 兼用型茶管管理機等の導入	28	62.9%	37.1	ha	144.317	kg	60.801	kg	4	契約栽培割合100%	98.2	ha	481.374	kg	481.374	kg	4	契約栽培割合100%	128.2	ha	555.218	kg	555.218	kg	取入れ一貫実等と確認し現状数値と比較検討	100.0	全量契約栽培を達成することができた。 契約数量も達成できている。	荒茶加工施設(ティーバッグライン)の建設及び兼用型管理機等の導入により品質・生産量の向上をを図ることが可能となり目標を達成することができた。引き続き関係機関・団体と連携し、生産量増加及び品質向上を支援していく。	

(5) 農産物輸出の取組(直近年の輸出実績がある場合の出向け出荷量又は出荷額の10%以上の増加、新規の取組の場合又は直近年の輸出実績がない場合の出荷額に占める輸出向け出荷額の割合5%以上又は輸出向け年間出荷量10トン以上)

地域協議会名	整備番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												事後評価の検証方法 (※定量的な検証ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考												
					現状				目標				実績																				
					年度	面積	生産量又は出荷量	輸出向け出荷量	年度	面積	生産量又は出荷量	輸出向け出荷量	年度	面積	生産量又は出荷量	輸出向け出荷量																	
指宿市農業再生協議会	1	指宿市山川地区	キャベツ	集出荷施設を整備することで、輸出取引先の需要に対応した出荷面積の拡大と計画的な出荷体制を確立し、輸出向け出荷量の10%以上の増加を実現する。	10	87.7t	25	ha	847	t	87.7	t	4	189t	38	ha	1480	t	189	t	4	196.8t	40	ha	1210	t	196.8	t	輸出向け出荷量で検証する。	107.7%	新たに耐暑性のある品種の生産を促して、輸出拡大に向けた取組を行っている。今後も継続して県内外の出荷量の拡大に努めることに期待したい。	集出荷施設を整備により、キャベツの鮮度保持や安定的な出荷が図られ、成果目標を達成できた。	

(6) 労働生産性の10%以上の向上

地域協議会名	整備番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												スマート農業推進特	地域(県又は国の規格(販売単位))	補正係数	事後評価の検証方法 (※定量的な検証ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考											
					現状				目標				実績																						
					年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	労働時間	年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	労働時間	年度	面積									生産量又は出荷量	価格(販売単価)	労働時間								
南九州市農業再生協議会	5	南九州市原野町別府地区	原料用さつまいも	ドローンによる薬剤散布や省力化機械の導入により、労働生産性の向上、労働生産性の6%以上の向上を図る。	10	10a当たり2,289 円/hr	64.37	ha	1,095,310	kg	38,104.19	hr	39.70	10a当たり2,486 円/hr	64.37	ha	1,095,310	kg	38,104.19	hr	36.56	10a当たり3,425 円/hr	55.72	ha	894,760	kg	37,933.04	hr	35.41	hr/10a	令和4年度の実績に基づき比較検証する。 単位面積あたり現状：90,887円/29.7hr 目標：90,887円/36.56hr	581.7	サツマイモ生産者のため作業量は減したが、ドローンにより薬剤散布の省力化を図り、稼働の確保をできる見込みとなったことにより、労働生産性の向上に貢献し、目標を達成できた。 今後、引き続きドローンを活用して作業時間の短縮とサツマイモ生産者の労働負担の軽減を図ることに期待する。	巡回防除の取組が進んだことから、労働生産性が向上し、成果目標を達成した。今後も労働生産性の維持・向上を図り、さつまいも生産者の経営安定に貢献することを目指す。	事業実施期間1年限り
鹿野市西平地域農業再生協議会	2	鹿野市西平	かんしょ	耕種機等の導入による労働生産性の向上	30	2,952 円/hr	90.1	ha	1975	t	110,643	千円	41.6	3,727 円/hr	94.1	ha	1994	t	113,036	千円	32.2	4,649 円/hr	65.2	ha	1349	t	37,698	千円	32.2	hr/10a	取組主体全員で、農機導入により労働時間の削減効果が見られた。全体として労働者が減少し、従事者数を維持している点も考慮したため、サツマイモ生産者に対する影響が少なく、収量が上がった。	作業日誌、経営簿記等により検証	219.0	昨年防除機をリース導入したことで、サツマイモ生産者の影響も少なく、収量が上がった。	産地内事業から移行